

2020年度 学校自己評価シート(浦和実業学園高等学校)

目指す学校像 「実学に勤め徳を養う」(校訓)に則り、円満な人格、健康な身体、豊かな教養を備え、勤労と責任を重んじる国家社会の有為な形成者を育成する。

重点目標
 1 学力の伸長(授業の充実と家庭学習の習慣化、能動的な学習態度の涵養)
 2 徳育の推進(基本的生活習慣の確立と人格の陶冶)
 3 自己実現のための進路指導の充実(進路実働の向上・高大連携への対応)
 4 実学の実践(学校行事の充実と地域社会との連携)
 5 生徒募集活動の充実(志願者数の増加と募集定員の確保)

達成度
 A ほぼ達成 (8割以上)
 B 概ね達成 (6割以上)
 C 変化の兆し(4割以上)
 D 不十分 (4割未満)

出席者
 懇話会委員 5名
 学校関係者 6名

年度目標		2020年度評価			学校関係者評価	
番号	現状と課題	具体的方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>○本校は普通科5コース、商業科2コースで成り立っている。幅広い学力層の生徒が学んでおり、授業の理解度には個人差があるので、生徒一人ひとりの意欲や能力をしっかりと把握したうえで学習指導を徹底する必要がある。</p> <p>○学習指導要領改訂の柱は「①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性を持ち多様な人々と協働して学ぶ態度」という学力の三要素の育成である。実現にはこれら以上に「アクティブラーニング」を前面に押し出した授業が必須となる。</p> <p>○教員のスキルアップへ向けた研修はこれまでも組織的に実施しており、今年度も引き続き実施していくべき事柄である。</p> <p>○学力の伸長に家庭学習の習慣化は欠かせない。その一助となるべく適切な課題を与える必要がある。また、昨年度3月より、コロナウイルス感染症対策として自宅学習期間が続いたが、今年度も予断を許さない状況であるため、オンライン授業等より効果的な家庭学習の在り方を構築する必要がある。</p>	<p>○普段の授業や定期考査はもちろん、小テストの実施、休業中の課題などを通して生徒一人ひとりの理解度を正確に測り、それぞれに応じた学力伸長を図る。</p> <p>○学習指導要領の改訂に備え、教科ごとにかリキュラムの再編成に取り組み、それに適した教材を選定する。</p> <p>○過去2年間実施した外部業者による「第三者授業診断」は、対象教員が専門家に授業診断されることはもちろん、一般教員が対象教員の授業を見ることが、すべての教員の意識改革につながった。昨年の実施内容を踏まえ、より一層教員の資質向上に有効となるよう改善したうえで実施する。</p> <p>○「授業アンケート」を実施し、生徒の意識を理解したうえで授業改善につなげる。また、生徒自身の授業に取り組む姿勢についても再確認させる。</p> <p>○課題・コースに応じた家庭学習課題を長期休業中だけではなく日常的に与え、授業内容を補充するとともに、家庭学習の習慣を身に着けさせる。また、コロナウイルス感染症対策のための自宅学習を有効に活用するため、「Classi」を用いた学習課題の配信や確認テストの実施、学習状況の把握を、担任及び教科担当が実施する。</p>	<p>○朝の小テストは、学年ごとに英語を中心にSHRで実施。学力向上はもちろん、1時間目の授業に向けて気持ちを落ち着かせ、集中力を高める効果もあつた。</p> <p>○学習指導要領の改訂に向け、各教科において教科会を複数回実施。教科案をまとめたものを校務委員会で検討するなど、カリキュラムの再編に向けた取り組みが進んでいる。</p> <p>○第三者授業診断を、昨年・一昨年に引き続きエデュアール光延栄治氏に依頼。11月2日～7日の5日間にわたり、15名の教員の授業を光延氏と本校教員で観察する。当該教科以外の教員も含めた講評会では様々な視点によるアドバイスがあり、授業改善という観点から有意義であった。また、i-Padが全教員に貸与された2年目となるが、i-PadをはじめとするICT機器を用いた実験的な授業が昨年以上に多く見受けられた。多くの教員がそれらの授業を観察することで、アクティブラーニング及びICT機器を用いた授業がより推進されるきっかけともなる。</p> <p>○授業アンケート(生徒対象)を11月に実施。今後は集計結果について教科会で協議し、授業改善につなげたい。</p> <p>○家庭学習課題を教科ごとに長期休業中及び日常的に出題した。特に、4・5月のコロナウイルス感染症対策のための自宅学習中は、各教科でClassiを用いた宿題の配信を行った。また、担任教諭はClassiを用いて各生徒の学習状況を把握したが、コロナ禍をきっかけに家庭学習の習慣が身についた生徒も多かった。</p>	B	<p>●全教員にi-Padが貸与され、各教科で有効に活用し、生徒の理解を深めるための工夫を行った。また、教科に関する情報や教材も担当者同士で容易に共有することができたので、効率良く授業を進めることができた。コロナ禍の学習指導として課題になっているオンライン授業等の準備も教科ごとに進めることもできた。i-Padは今後も様々な形で有効に活用していきたい。</p> <p>●第三者授業診断を一昨年度より導入し、今年度で完成年度をむかえた。第三者からのアドバイスは教員の視点とは異なる点も多く、貴重な意見を得ることができた。次年度はこれらの意見を活かし、教員同士の授業見学(研究授業)や意見交換等を積極的に行うことで、より良い授業を目指したい。</p> <p>●授業改善のために授業アンケートは非常に効果的であった。更に良いものにするために各教科担当者からの提案(アンケートの集計方法や内容等の見直し)をふまえ、次年度以降の授業アンケートの実施方法を検討したい。</p> <p>●Classiの様々な機能を有効に使うことで学校生活以外でも学習面や生活面で生徒とのコミュニケーションを増やすことができたので次年度も有効に活用したい。</p>	<p>【学習指導・進路指導】 ○大学受験指導は生徒・保護者と担任との信頼関係が大事だが、面談やスカウト(日記)などを通じてコミュニケーションが図られているのが好実績につながっていると思う。 ○進学実績が良かったのは、最後まであきらめさせない指導を先生方が粘り強くしてくれたお蔭だと思う。 ○コロナ禍中、感染対策を徹底していち早く授業を再開してくれたのは保護者としてもありがたかった。子どもも楽しそうに通学していた。 ○第三者授業診断による評価が高つたのは素晴らしいこと。日頃多忙な中、先生方がわかりやすい授業を実践するためには準備を怠っていないからこそ結果だと思う。</p> <p>【生活指導】 ○本来であれば家庭や地域社会で行われるべき基本的生活習慣の確立や挨拶の励行指導なども学校が請け負う時代になったが、先生方が日々熱心に指導して下さいのおかげで、在校生の様子を見てみさきんとしている生徒が多くなった。本当にありがたかった。</p> <p>○SNSによる誹謗中傷が時折見受けられると子どもから聞いているが、学校としての対策はどうしているのか? ●情報管理部が初対応を定期的に行っているが、追いついていないのが現状である。いじめアンケートの定期的な実施、LHRの時間を使ってSNSの悪影響を説くなど教育的指導はしているが、まだ十分とは言えない。学校と保護者が連携をとって継続的に子どもたちを見守ることが肝要である。</p> <p>【国際教育】 ○実際に子どもを海外に留学に参加させて改めてこのプログラムのすばらしさに気づかされた。学校のHPでもFacebookを通して現地の様子を毎日更新されていたのでありがたかった。しかしまだ広報活動が十分とは言えない。もっと外部に向けて学校の魅力を積極的に発信してほしい。</p> <p>【要望】 ○75周年記念事業の一環として制服を見直す機会があれば、これからの時代は女子にも「ボタン」を選択できるようにしてほしい。 ○75周年記念事業の一環として新校舎の建築にあたり、特に女子生徒にとっては何れも重要なポイントになるので充実させてほしい。 ○校内の自販機をスリなどの鉄道系カードも利用できるようにしてほしい。 ○学習プリントや連絡用紙で更紙が使われていたり、耐久性に難があるのでは是非中質紙や上質紙を使っていたらいい。</p>
2	<p>○登下校時のルールやマナー(自転車通学者を含む)については継続的に指導を行っているが、外部からの苦情の根拠には至っていない。今後も交通安全指導とともにトラブルを発生させないための対人マナーについて指導する必要がある。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の感染防止に配慮した登下校のあり方を早急に検討し、実施しなければならない。</p> <p>○公共心を育み、社会の一員としての自覚を促すため、学校周辺の清掃活動を通じて地域の美化に貢献することの教育的意義は大きい。今後も引き続き実施すべきである。</p> <p>○挨拶の励行や身だしなみを整えることは高校生としての品格を高め自覚を促す上で不可欠である。また生活習慣の乱れによる遅刻者にはその改善に向け別途指導を行う必要がある。</p> <p>○問題行動の未然防止と早期発見のため、教員は常に生徒理解の上に立った指導を心掛ける必要がある。</p> <p>○心身の鍛錬と個性の伸長を期して部活動への参加を促し、教員・生徒とも、より活気あふれる環境づくりに努めるべきである。</p> <p>○重大事件につながる危険性の高い薬物乱用やSNS上の「出会い系」「詐欺」サイト等については特に関係機関等を活用した指導も必要である。</p> <p>○安心で安全な学校環境を確保するため、「いじめ」「体罰」に関するアンケートを定期的に実施し、教員は常に状況の把握に努める必要がある。</p>	<p>○登下校時の生徒の安全確保とマナー向上のため、登校時8ヶ所、下校時5ヶ所に教員を配置し、指導に当たるとともに各ホームルームや集合においても生徒が自分の問題として捉え、考えられるよう指導にも工夫を施す。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として当番は登校時間を1時間遅らせ、学年別・グループ別の分散登校とする。</p> <p>○徳育の側面から奉仕活動(通学路清掃)を年間を通じて全クラスに割り振り、継続的に実施する。またオンライン精神に基づいた音読を実践させるべく、各ホームルームや部活動、委員会活動等により活性化させる。</p> <p>○基本的生活習慣を確立させるため、毎朝校門において遅刻者に対する指導を行い、さらに必要を認めた場合には保護者の協力も求めながら改善に向けたより効果的な指導を行う。</p> <p>○問題行動の防止と早期発見の観点から、昼休み時間等に校内の巡回指導を各学年単位で実施する。</p> <p>○教員は生徒に対し、部活動への積極的な参加を呼び掛けると共に、生徒がより主体的に活動しやすい環境づくりに努める。</p> <p>○薬物乱用とSNSに関する問題については外部より専門家等を招くなどして全体的に指導を行う。</p> <p>○「いじめ」を迅速に「アンケート」(6・11月)と「体罰に関するアンケート」(9・2月)を実施し、事実確認と適切な対応を迅速に行う。</p> <p>○頭髪・服装等の整容指導、言葉遣いや生活態度に関する指導及びいじめや差別を含む人権教育に関する指導についてはあらゆる場面で恒常的に行われるべき教育活動であり、生徒指導部を中心にさらに議論を深め、全ての教員が一致協力して実践する体制を確立する。</p> <p>○生徒の実態を把握するため、「スクールライフ」や「Classi」を有効に活用する。</p>	<p>○登下校の交通ルールとマナー向上のため、登校時8ヶ所、下校時5ヶ所に職員を配置し、通学路指導を継続的に実施した。また交通安全指導として自転車通学者に対しては並走の禁止、雨天時の雨合羽着用指導、スマートフォン・音楽機器等の使用による「ながら運転」に関する指導を継続的に行って共に全校生徒向けに「自転車交通安全指導」を外部より講師を招くなどして実施した。</p> <p>○通学路を中心とした地域の清掃活動を年間を通じてインター外部・硬式野球部・駅伝部などに加えて全校70クラスを割り振り、実施した。</p> <p>○遅刻者に対する指導を毎朝校門付近において実施し、基本的生活習慣の改善を促した。</p> <p>○登校時に各クラス生活委員によるオアシス運動の実践及び身だしなみに関する呼びかけを行った。</p> <p>○昼休みを中心に校内巡回指導を学年別に実施し、問題行動の未然防止に努めた。</p> <p>○新入生に対しては特に部活動への加入を促している。加入率はここ数年上昇傾向にあり、今年度においては昨年度とほぼ同様の70%であった。</p> <p>○夏季休業直前の8月に埼玉県保健医療部薬務課の協力の下、薬物乱用防止のための全体指導を実施した。また「いじめに関するアンケート」を7月・12月に、「体罰に関するアンケート」を10月・2月(予定)のそれぞれ年間2回行い、実態把握と問題の未然防止に努めた。</p> <p>○頭髪・服装等の身だしなみ指導を学年やホームルームを単位として継続的に行った。</p>	B	<p>●生徒の登下校時に実施している通学路指導の眼目は交通安全と公共マナーの体得・実践にある。教員は生徒に対し、自己の安全を確保させると同時に他者に対する思慮・分別ある行動の重要性を理解させ、地域社会の成員としての自覚を持たせる指導を行う必要がある。</p> <p>●生活委員による身だしなみ・オアシス運動に関する声掛け、厚生委員による駐輪場の整理整頓、環境整備委員による清掃状況の点検など生徒を主体とした学校生活全般に係る改善活動は他の委員会活動にも敷衍させ、更に推進していくべきである。</p> <p>●遅刻者への指導は個別指導をその肝とする。全校生徒の約4割は1年間皆勤である事実を踏まえれば、指導を要する生徒を特定し、その生活習慣を改善させるための効果的な指導法を早期のうちに準備しなければならぬ。</p> <p>●交通安全、選挙啓発、タリメンテイング、サイバーセキュリティセミナー、未成年飲酒・喫煙防止キャンペーン、痴漢犯罪撲滅キャンペーンなど警察・行政等主催の各種活動についてはコロナ禍の中、実施そのものが難しくなっているが、こうした催しへの参加は生徒が「公共人」という生き方に共感し、意識の変化を醸成する上での有効な機会となるので環境が整いつつ次第、今後は積極的に取り組ませたい。</p> <p>●より良い教育環境づくりのために薬物乱用防止等の非行防止指導及びいじめ・体罰防止のための指導、アンケートにも定期的に実施していくとともに、さらにこれらに加え、自殺防止教育への取り組みについても具体的なプログラムを策定・実行していく。</p> <p>●頭髪・服装等の整容指導において教員は適切な言葉と姿勢を心掛け、アンガーマネジメントに留意しつつ、毅然とした態度で生徒の成長、変容を促す指導を行わなければならない。</p>	
3	<p>○2019年度卒業生(2020年3月卒業)の進路状況は、私立上位校の合格が増加し、その他は例年並みであった。中でも、特進部の私立上・中位校の合格者増が特筆されるが、その反面、選進コースの上・中位校の合格者は減じてしまった。本校は、課程・コースによって進路目標や入試のスタイルが異なるため、コースの特性に応じた進路指導を徹底していかなければならない。もちろん、どのコースでも共通して求められるのは、生徒一人ひとりの学力・適性を正確に把握した上で進路指導と学習指導であることは言うまでもない。</p> <p>○進路目標を達成するには早期に目標を設定する必要がある。そのためには、生徒自身が自己の特性を把握しなければならない。面談など担任レベルでの指導はもちろんだが、進路指導室や学年が協力し、生徒の進路への意識を啓発する行事を組んだり、大学と連携して大学見学会など大学そのものを知る機会を作る必要がある。</p> <p>○授業を補充して学力向上を図るために課外の進学補習講座の充実させ、進路目標達成の一助となるよう、各種検定の取得を推し進めたい。</p>	<p>○各学年と進路指導室が連携し、外部講師を招いての進路講演会をコロナ対策を徹底したうえで実施する。また、大学見学会なども縮小傾向にあるので、視聴覚に訴える形で進学意識を喚起するイベントを企画・立案する。</p> <p>○二者面談などを通して生徒の適性や進路目標を把握し、各生徒の学力や適性に応じた進路指導を行う。また、教員のスキルアップのため、進路指導室と協力して大学や予備校の説明会(オンライン形式含む)に参加するなどの研修を実施する。</p> <p>○三者面談を実施して保護者と生徒の意思を確認し、進路目標実現に向けて協力関係を構築する。</p> <p>○特進部はもちろんであるが、選進コースにおいてもコースごとに進路目標を設定し、担任をはじめ教科担当までが同一見解のもとに学習指導・進路指導を展開する。そのために、各学年の担任がコースごとに連携するとともに、学年を越えた縦の連携を図る。</p> <p>○大学の定員厳格化による一般型選抜の難化を背景に、学校推薦型選抜、総合型選抜を希望する生徒の増加傾向が予想される。放課後の小論文対策講座や検定対策講座、模擬面接への主体的な取り組みを促す必要はあられるが合格の保証は無論ないので、一般型選抜に備えた教科学習も並行して進めさせるよう指導する。</p>	<p>○進路講演会などの行事を各学年と進路指導室が連携して実施し、1～2学期にわたって生徒の進路意識の高揚を図った。主な具体的内容は次の通り。 【6月】進路ガイダンス(商業3年) 【7月】進路ガイダンス(商業3年) 【8月】進路ガイダンス(商業2年)・大学説明会(特進部3年) 【10月】キャリアガイダンス(普通科1年)・キャリア探求プログラム(特選1年)・キャリア支援プログラム(特進1年)・大学説明会(特進部1年) 【11月】キャリアガイダンス(普通科1年)・キャリア探求プログラム(特選1年) 大学説明会(選進1年)・大学模擬講義(選進1年) 【12月】進学ガイダンス(選進2年) コロナ禍において、上記の多くはZoomなどを利用してのリモート実施であった。</p> <p>○進路に関する教員研修を5月に実施。その後、普通別の分科会も実施した。7月には新任教員向けの進路指導研修を実施。各大学や、予備校など外部業者の進路情報は、進路指導室が集約・選択して各担任へ配信し、生徒へフィードバックした。</p> <p>○三者面談を3年生中心に実施した。情報科3年は推薦希望者が多いためには7月に、普通科は進路希望別に随時実施。保護者への進路情報提供および意思の疎通を図った。</p> <p>○進学補習講座は、学校再開の6月よりの通年募集で、1年生12講座、2年生14講座、3年生19講座を開講した。また、夏季休業中には成績不振の生徒に対する補習も実施した。</p>	B	<p>●今年度の大学現役合格者数(一貫部除く)は【国公立】16名、【GMARCH】22名、【日東駒専】80名、【大東亜帝国+拓殖】123名、【芝浦工業・東京電機・工学院】122名、【成成明國武+獨協・文芸】30名であった。残念ながら早慶上理で現役合格者を出すことができなかったが、昨年度と比較すると実績は改善された。一方、一般型選抜の1人あたりの受験校数は減少し、感染を恐れた都内の学校を敬遠する傾向もあり、コロナウイルス感染拡大は今年度の大学受験に非常に大きな影響を与えた。この影響で歩留まり率の計算が難しくなった大学も多く、補欠の繰り上げ合格や不合格から合格へ変更になった生徒も例年よりも多かった。</p> <p>●普通科では大学現役合格者数(一貫部除く)が737名と大幅に増加した。一貫部や特進部だけでなく、選抜・選進コースからも【国公立】2名、【GMARCH】13名、【日東駒専】33名を含む多数の現役合格者を出すことができた。単年度指導ではなく、3年間の進路指導計画(朝テラや進路ガイダンス)を立て、生徒の学習状況を把握(クラス間での情報交換)することで担任だけでなく学年全体での指導することができた。次年度は学年の横のつながりだけでなく、1～3学年の縦のつながりも強化することで良い実績が継続するようになりたい。ただ、理科の難関大学で実績を残すことができていないので、英語はもちろん数学・理科の強化が課題である。商業科ではコロナ禍で様々な不安から資格取得を優先する生徒もいたためか大学進学者の割合が昨年度の58%から49%に減少し、美容・医療・情報関係の専門学校希望者が増加した。</p>	
4	<p>○例年各種の校外行事(オリエントキャンプ、ハイ短期留学、課題研究)を実施し、それぞれの目標達成に努めてきたが、今年度については新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、オリエントキャンプの実施については延期を模索するも、最終的には中止とせざるを得ず、またハイ短期留学は昨年度最終班より実施を取り止めており、今年度については全面的に中止とせざるを得なかったが、総合的な探求としての位置付けもことから、これに代わる校外宿泊行事として生徒にとって心に残る取り組みの実施を検討している。</p> <p>○文化祭や体育祭の教育的効果の大きさは言うまでもないが、今年度については新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点からいざしれども従来通りの実施は難しく、これに代わる取り組みを検討しなければならない。</p>	<p>○ハイ短期留学に代わる校外宿泊行事の実施に当たっては生徒の安全を第一に考え、事前の指導内容(実施の目的・安全・健康・生活態度等)の徹底を図った上で慎重に進んでいく。</p> <p>○大丸松坂屋上野店での課題研究(商業実習)ではキャリア教育の観点から指導を行い、研修担当者の協力を仰ぎつつ、望ましい職業観の育成と勤労意欲の向上を図る。</p> <p>○文化祭については時期を先送りし、主として文化部の活動成果発表の場を設けてこれに替えることを検討している。また体育祭は彩湖グラウンドにて学年別の球技大会等、時期の問題も含め、代替行事実施の可能性を探っている。</p>	<p>○新入生を対象とするオリエントキャンプは5月中旬に群馬県みなかみ町方面にて実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の観点から中止とせざるを得なかった。</p> <p>○今年度のハイ短期留学については新型コロナウイルス感染症の影響により、実施を全面的に見合わせた。その代替措置として3月に京都・広島方面への教育旅行を感染防止対策を十分に考慮した上で実施する予定である。また特進部においては11月に「English Expression」としてUHCとオンラインで結び、英語によるスピーチ及びプレゼンテーションを行うなど、新たな試みに取り組んだ。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により実施が懸念された課題研究(商業実習)であったが、大丸松坂屋上野店の協力を得て商業科2年生情報進学コースの生徒を対象に12月期・1月期(予定)の2期に分け、実習期間を短縮しながらも実施することができた。キャリア教育の一環として期間中生徒は接客販売等の業務を通じ、平素教室では経験することのできない様々な職業体験をすることができた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、文化祭に替えて主に部活動の成果を発表する機会として「URAIJITSU Fes」を11月に開催した。様々な制限の下ではあったが、17の部活動が参加し、それぞれ展示・ステージ発表等々に創意と工夫が見られた。また在宅生徒及び保護者向けにYou Tubeにて当日の発表の様子や生徒会・放送部による番組を配信し、学校行事としての意義が損なわれることなく十分な措置が行われた。</p> <p>○体育祭については新型コロナウイルス感染予防の見地から実施を取りやめ、代替行事も行わなかった。</p>	B	<p>●オリエントキャンプ・ハイ短期留学及びその代替行事として計画された京都・広島方面への教育旅行も全て新型コロナウイルス感染症のため中止とせざるを得なかったことは甚だ残念であったが、特進部における「English Expression」の取り組みは新機軸を打ち出したものとして一定の評価を与えて良いかと思われる。</p> <p>●商業科情報進学コースの2年生を対象とした商業実習は12月期の1クラスの実施となったが、困難な状況の中に対処し経済活動を回転させ、人々の生活を支援していくかという企業のあるべき姿を実体験できたことはある意味においては大きかったと言える。</p> <p>●従来の文化祭の機軸を大幅に変えて実施した「URAIJITSU Fes」は数々の制限の中であつたが、関係職員・生徒の尽力によって一定の成果を得ることができたかと思われ。次年度もこれと同様か又は近い形で文化祭を行うとすれば時勢を考慮に入れた上でできる限り生徒の主体性を発揮できる行事とすべく、一層の創意工夫を施す必要がある。</p> <p>●体育祭の実施も残念なことであつたが、「コロナ禍の今できることは何か」を念頭に置き、生徒の気概を損ねることのないよう、工夫を凝らし実施の道を探っていたと考えている。</p>	
5	<p>○生徒募集活動は私立学校の存続である。本校の教育方針は、多くの人々から支持され、昨年度は良好な生徒募集が行われ、定員の確保が達成された。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、入試業務全般に支障が生じることが言うまでもない。だからこそ、教職員が一致団結し、生徒募集活動に取り組むことが必要である。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、塾主催の外部の説明会が軒並み中止となっているため、あらゆる機会を捉えて、募集効果が高まるよう運営方法、内容について検討していく必要がある。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症拡大により、本校での入試説明会は例年とは異なる対応が求められる。受験生、保護者に安心感を与えるには密を避けるべく来校人数を制限、個別面談時間の短縮、感染予防のための製品を整備、着用品など目に見えない形で表れる方策を取ることに留意する。</p> <p>○塾主催の外部説明会は新型コロナウイルス感染症拡大によりオンラインに移行しつつあるため、画面を通して本校の魅力を訴えられる力量が求められる。コンテンツ、説明内容、言葉遣いなど細心の注意を払い、閲覧者が本校の説明に目を向け、留まってもらえるような努力が必要である。</p>	<p>○例年の入試説明会は午前、午後の二部制で人数制限を設けず実施していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、参加人数を絞り、時間毎に区切って行った。具体的には7月・8月に実施した2回分は各回3,000名(午前、午後で各1,500名ずつ)を枠とし、9月以降の実施回は各回2,100名(各回300名を上限とし、7回実施)の定員とした。11月28日実施回までの参加人数15,808名だった。前年比+1,500名であった。各回で人数制限を設けたことにより、密が避けられ、また、誘導もスムーズになり、結果的には前年比+1,500名であった。</p> <p>○塾主催の外部説明会が軒並み中止となり、募集活動が思うように行えなかったため、オンラインの活用が必然となった。本校でもYouTubeチャンネルを開設し、動画を配信したり、ZoomやGoogle Meetなどを使用して個別相談を行った。これらに取り組むことで、募集活動だけでなく、ICT教育にも理解が深まり、いきおい授業力の高まりにつながったので、ICT活用の効果を喧伝していきたい。</p>	C	<p>●2021年度入試における志願者数は普通科1836名(前年-358)、商業科1008名(前年-273)、合計で2844名(前年-631)であった。入学者数は普通科が356名(前年-147)、商業科が235名(前年-80)、合計で591名(前年-227)の大幅減となった。コロナ禍での募集活動は制約も多く十分ではなかったが、原因を分析し、次年度の募集活動につなげていきたい。</p> <p>●塾主催の外部での説明会、PTA見学会、中学校に向いでの進路講演会など、対面で本校の教育活動をアピールする機会が激減した。オンラインでの説明を増やしたり、他校の取り組みを参考にし、本校の魅力を伝えていく必要がある。</p> <p>●WEBで出願手続きだけでなく、合否発表、入学金決済まで実施したことで効率的かつスピーディーな対応ができたが、まだまだ不十分な点があるので、課題を共有し、改善できる点は改めていきたい。</p>	